



ラーメンにただキマます!! 最後の職人魂

〈長野県〉 大日方^{おひなた}しのぶ 41歳

「病院は病気を治すところ。だから家へ帰りたい」

食道がんで余命数日を宣告されたKさん。中心静脈点滴の処置が済んだ翌日、住み慣れた自宅へ帰った。8月も初めのころだった。

Kさんは過す時間の全てを自分で選択し決定していた。9月も半ばごろ、「今、何を思っていますか?」と問い掛けてみた。

「母ちゃんの作るうまいラーメンが食べたい。申し訳ないが早く死にたい」

旅立つときがすぐそこまできていることも承知している。そんな中、聞いた2つの希望。食べることが無理だと分かっている、話してくれた本当の気持ち。何とかしたくて訪問

看護師に相談すると、「ラーメン食べようよ!!。何の飾りもない一言に、

一気に背中を押された。

すぐに関係者に声を掛けて集まった人数は9人。奥さんが自慢の腕を振るって作ってくれた「もやしラーメン」。最高においしかった。Kさん

も少しだけスープを口にして、「塩があまいナア」と最後の職人魂を見せた。たくさんの笑いがあり、楽しい時間の中で撮った写真。「早く死にたい」と涙を流しながら話してく

れた本音。写真には満面の笑みでピースしている姿があった。元ラーメン屋のKさん。きつと皆が「おいしい」と喜んだ姿がうれしかったんだろう。笑顔であふれた写真を色紙に飾り、プレゼントすると「ありがと

う。家に帰って来て本当に良かった」と言ってくれた。その数日後、奥さんへ字にならない言葉を手紙に残し穏やかに旅立った。最後のメッセージは「ありがと。さようなら」。

ケアマネジャーとして、1カ月半の最期の時間に関われたことに、感謝しかない。あのとき、訪問看護師が「食べよう!! ラーメン!!」と私の背中を押してくれたからこそ、細やかに関わってくれていたからこそ、見ることができた満面の笑顔。たくさんの方のお看取りをされる訪問看護師。そんな看護師さんたちから、命に向き合うことをもつともつと学びたい。そして、ときには命の終い時を一緒に支援していきたい。少しでも笑ってほしいから。